

部外秘

保 険 診 療 便 覧

—岐阜市医師会金華班会員用—

平成 22 年 12 月

岐阜市診療報酬研究会

はじめに

国民皆保険制度の下では医療機関は保険請求のルールを十分理解した上で保険診療を行うことが前提となっていますが、しばしば会員がこれらのルールを十分に理解しているか疑問を感じる場合が見受けられます。

近年情報公開の時代となり、厚労省は平成 22 年度診療報酬改定の情報をインターネットで答申案の前段階から情報公開してきました。以前は改定の概要に関する説明を「厚労省技官会議」で実施していましたが、今回より名称を「診療報酬改定説明会」と変更し You Tube の厚労省動画チャンネルで一般公開するようになりました。さらに、診療報酬改定の解説スライドを、厚生労働省はホームページに 155 枚、(社)日本医師会はメンバーズルームに 336 枚を公開しましたので、誰もが容易に診療報酬改定の情報を知ることができるようになりました。

一方、厚労省は 10 月から院外処方箋に医療機関コードの記入を必須としましたので、院外処方せんが交付された医療機関のレセプトと調剤薬局のレセプトとを突き合わせる審査（突合審査）が容易に実施できるようになりました。

平成 22 年 4 月から「審査支払機関の在り方に関する検討会」を開催し、その会議で審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金や国民健康保険中央会）は平成 23 年 4 月から一次審査で突合審査、縦覧審査、横覧審査を開始することを言及しています。

社会保険診療報酬支払基金は、電子レセプト請求のための審査支援機能の拡充等に取り組み、コンピュータチェック範囲の順次拡大を公表しています。平成 22 年 2 月には、傷病名に対する医薬品の適応及び用法・用量のチェック機能を、9 月には医薬品の傷病名に対する禁忌及び医薬品の併用禁忌などのチェック機能や、傷病名と診療行為の適応関連のチェック機能を構築し、10 月審査分から実施することになっています。どの場合でもコンピュータを使用していますので審査支払機関の事務員が事務共助で疑義付箋を付ける頻度は高くなります。しかし疑義付箋が付いたらすべて査定される訳ではなく、当然審査員の審査を経てから査定が実施されますが、査定される可能性は極めて高くなります。

その他、社会保険診療報酬支払基金は 10 月請求分において、電子レセプト請求件数の全体に占める割合が医科 92.5%、調剤 99.9%、歯科 14.8%になったと公表しました。医科のほとんどすべてレセプトが、コンピュータ情報として審査支払機関にも保険者にも届けられることになりました。その結果、保険者が突合点検、縦覧点検、横覧点検などやコンピュータチェックを実施し、二次審査〔再審査〕の請求件数が増加することが見込まれます。

以上のニュースからみても医療機関の保険請求を取り巻く状況は日増しに悪くなっていますので、医療機関は保険診療の概要を熟知して初心に帰って保険請求をしなければならなくなったと思います。

このたび、岐阜市医師会員の有志で「岐阜市診療報酬検討会」を立ち上げ、同検討会で公開された色々な配付資料から保険請求や保険診療に役立つ項目を選び出し検討することにしました。さらに岐阜市医師会員が入手できる資料も検討しました。

今回、その成果をこの小冊子で公表することにしましたが、これはあくまで個人的にまとめたものですので、これを参照にいただき詳細は「医科診療報酬点数表」で調べて直してください。

最後にこの小冊子を日常診察室の机の片隅に置いていただきお役立ていただけたら幸いです。

平成 22 年 12 月 9 日

岐阜市診療報酬検討会 代表 江崎 俊夫

参考事項：

電子レセプト請求：オンライン請求または電子媒体による請求

突合審査：院外処方箋が交付された医療機関のレセプトと調剤薬局のレセプトとを突き合わせる審査

縦覧審査：一人の患者の審査の月のレセプトだけではなく、例えば過去 3 か月前からのレセプトを順に見ながら行う審査

横覧審査：一人の患者が審査の月に診療を受けた複数の医療機関のレセプトを横並びに見ながら行う審査

目 次

1. 群馬県での保険診療に関する資料（28 頁）	1
2. 岐阜県での保険診療のカルテに関する指導内容（8 頁）	29
3. 保険指導通知の概要（10 頁）	37
4. 診療報酬請求の基本的なシステムの話（7 頁）	47